



本のあるところ
 -三重大学附属図書館-

分散+集約

三重大学における、図書館のありかたを提案する。

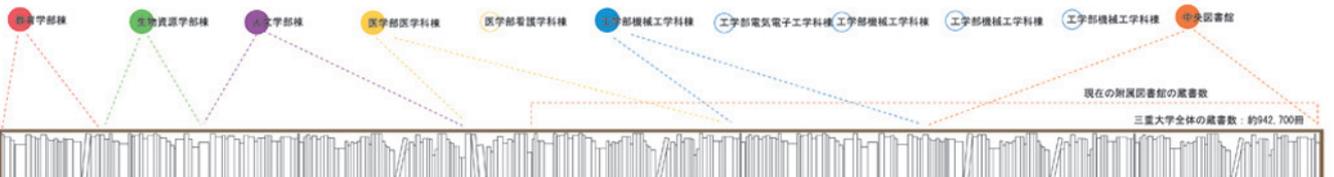
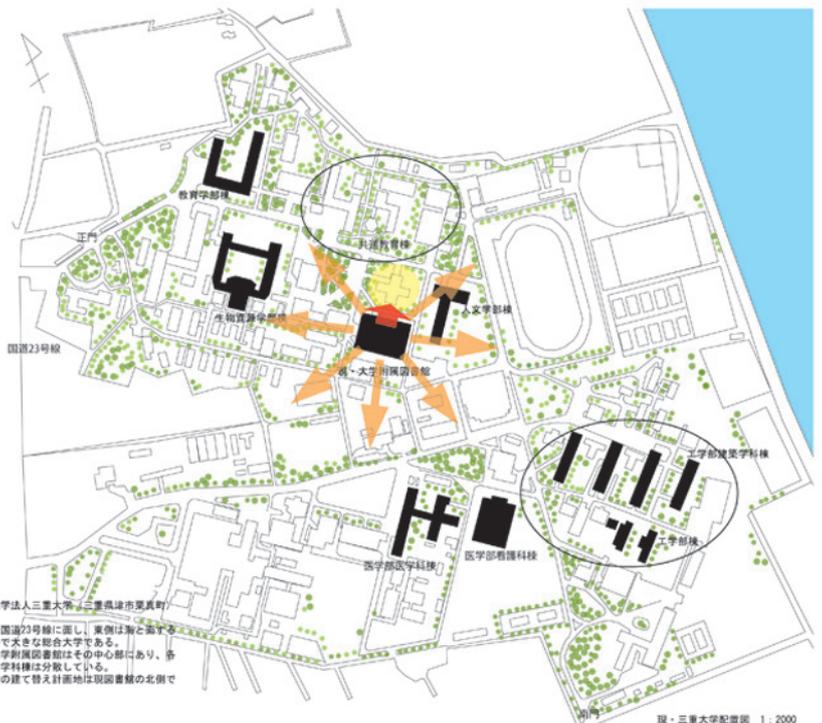
たくさんの学生と職員が集まって生活する大学内で、図書館はどんな役割をもっているだろうか。

- ある学生は授業レポートのための調査をし
- ある学生は趣味で小説を読み
- ある学生は卒業論文のために論文集を参照し
- ある教員は参考図書を図書館に設置し
- またある学生はふらりと目に付いた本を手にとる。

では、図書館が各学科ではなく三重大学附属図書館に集約されている意味はどこにあるのだろうか。

授業の参考図書、論文集は各学科内に
 そして小説や貴重な図書は本館にあるべきではないだろうか

各学部・学科棟に、学生の学習要素のすべてを一つにした、本のある空間を
 中央図書館として、図書と対峙し、読むことを楽しむ、豊かな、本のある空間を設計する。





①自主学習（予習・復習）

②グループ学習（少人数授業）

③雑談（友人・教職員と）

④調査・レポート作成

⑤プレゼンテーション

各学部・学科棟

- ・さまざまな学習の形態に対応した、図書のあるラーニングスペースを配置
- ・専門性の強化
- ・学生の興味関心を誘発させる、より充実した学習環境の設置

人文学部棟 増築計画

現況：地上5階一部3階
 各分野の資料室が点在
 資料室はゼミ室としても使用
 計画：地上5階、一部6階
 現況で3階建の部分に3層増築。
 3層吹き抜けの大空間を2つ作り
 学科分けする。
 本棚が部屋の壁に沿って並び、3
 層分の本棚を望むことができる。

建築学科棟 増築計画

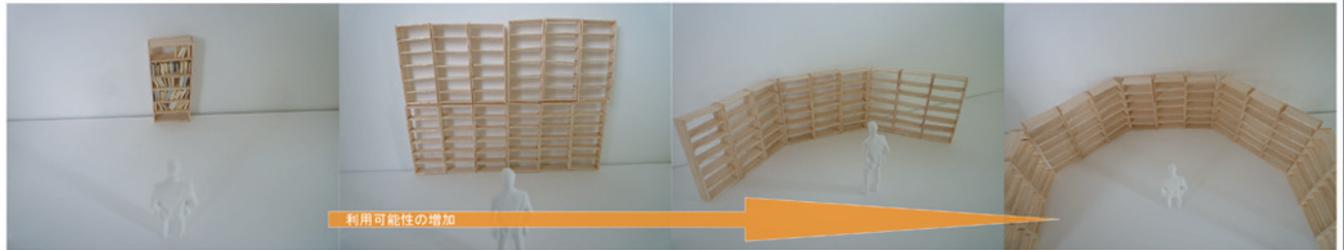
現況：地上4階
 4階に講義・自習で利用するア
 トリエ及び、2、3年生用のブース
 （衝立で仕切られた5～7人単位
 の座固定の学習スペース）
 計画：地上4階、一部5階
 ブース空間を東西に広く、また1
 層高くし、本を並べる空間を配置。（荷
 重の補強として、既存の柱の補強及び東
 西面に合計14本の柱を増築）

中央図書館

- ・蔵書数が半数になる
- ・貴重図書等は地下で機械によって管理して保管する
- ・本の倉庫ではなく、本を飾る空間を創造する
- ・本とたくさん向き合える本棚と空間を設ける

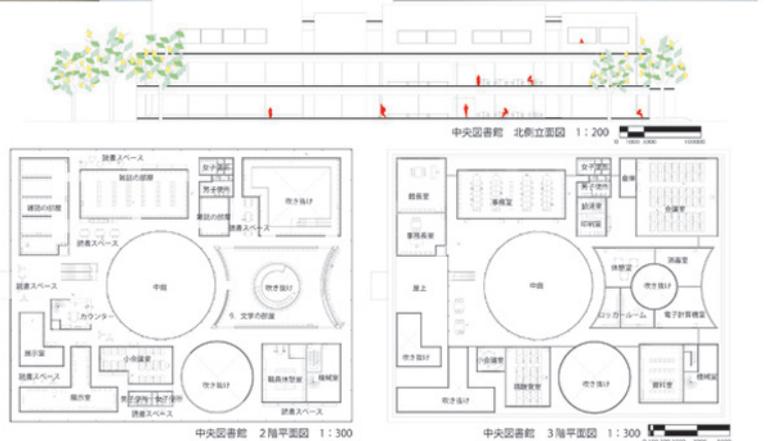
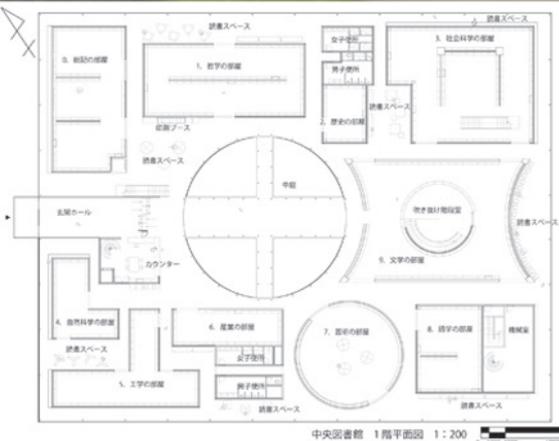
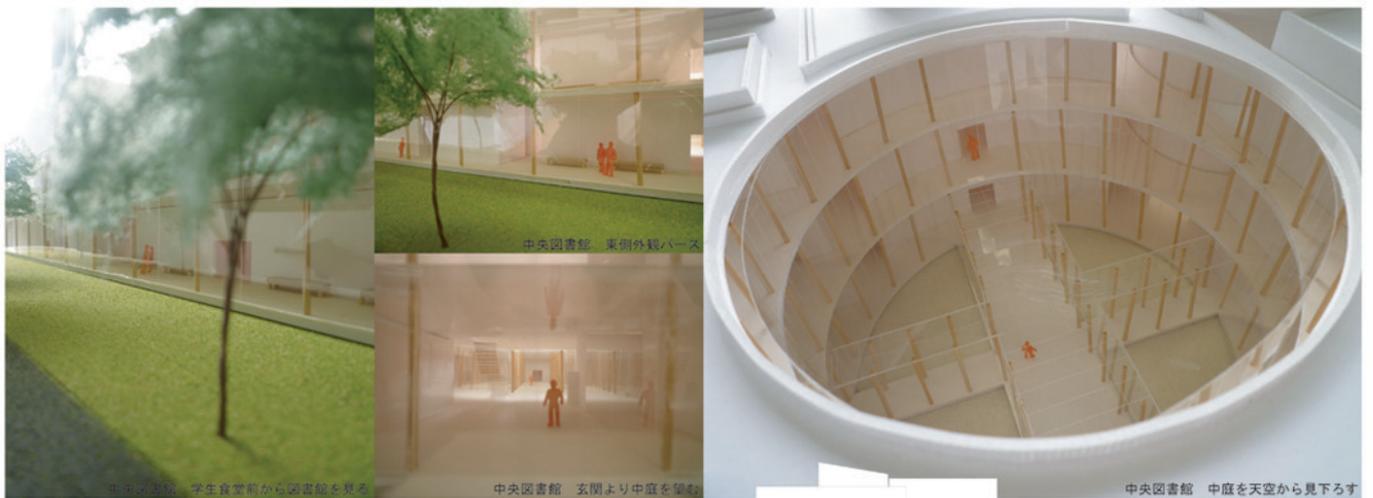
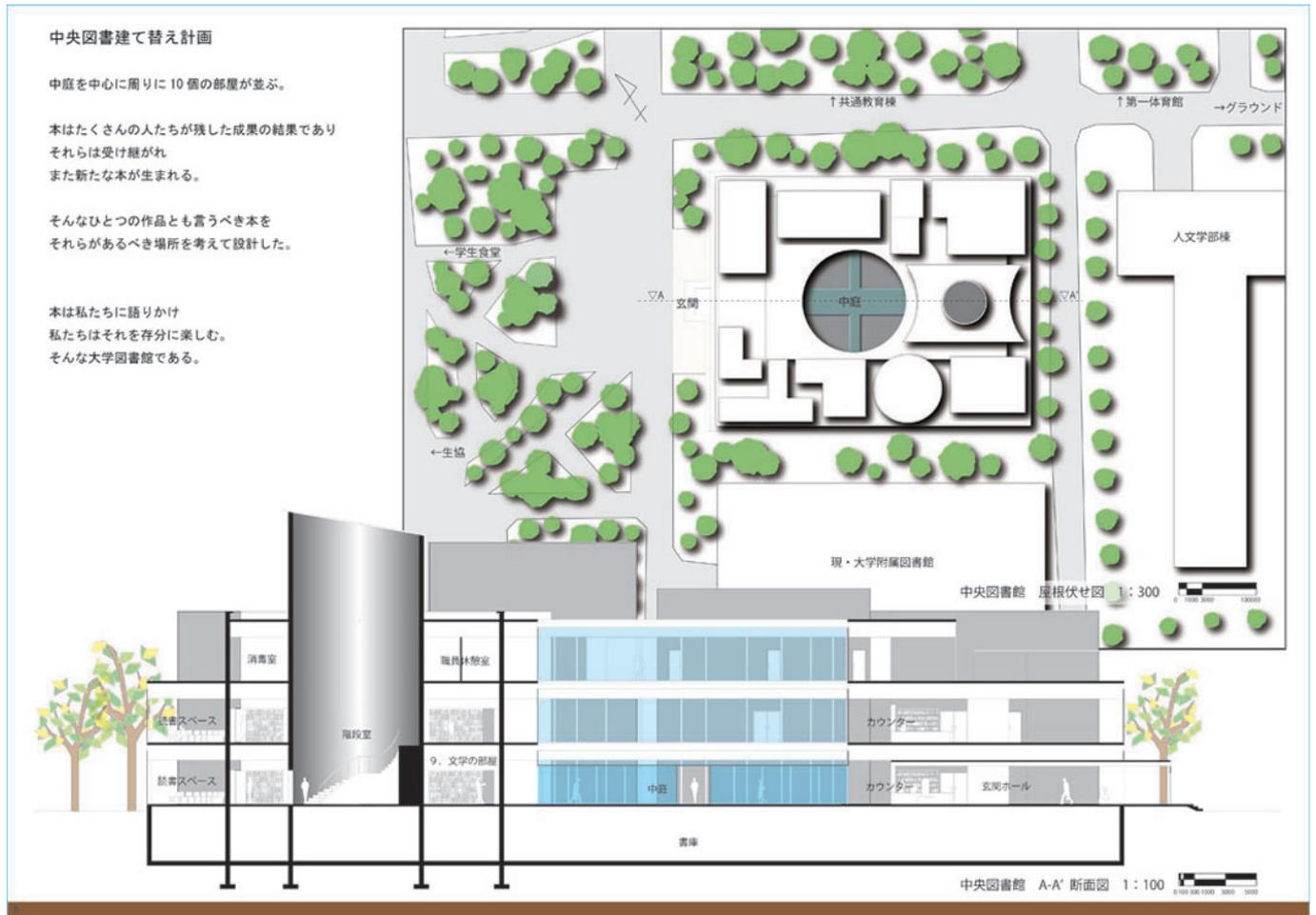
中央図書館 新築計画

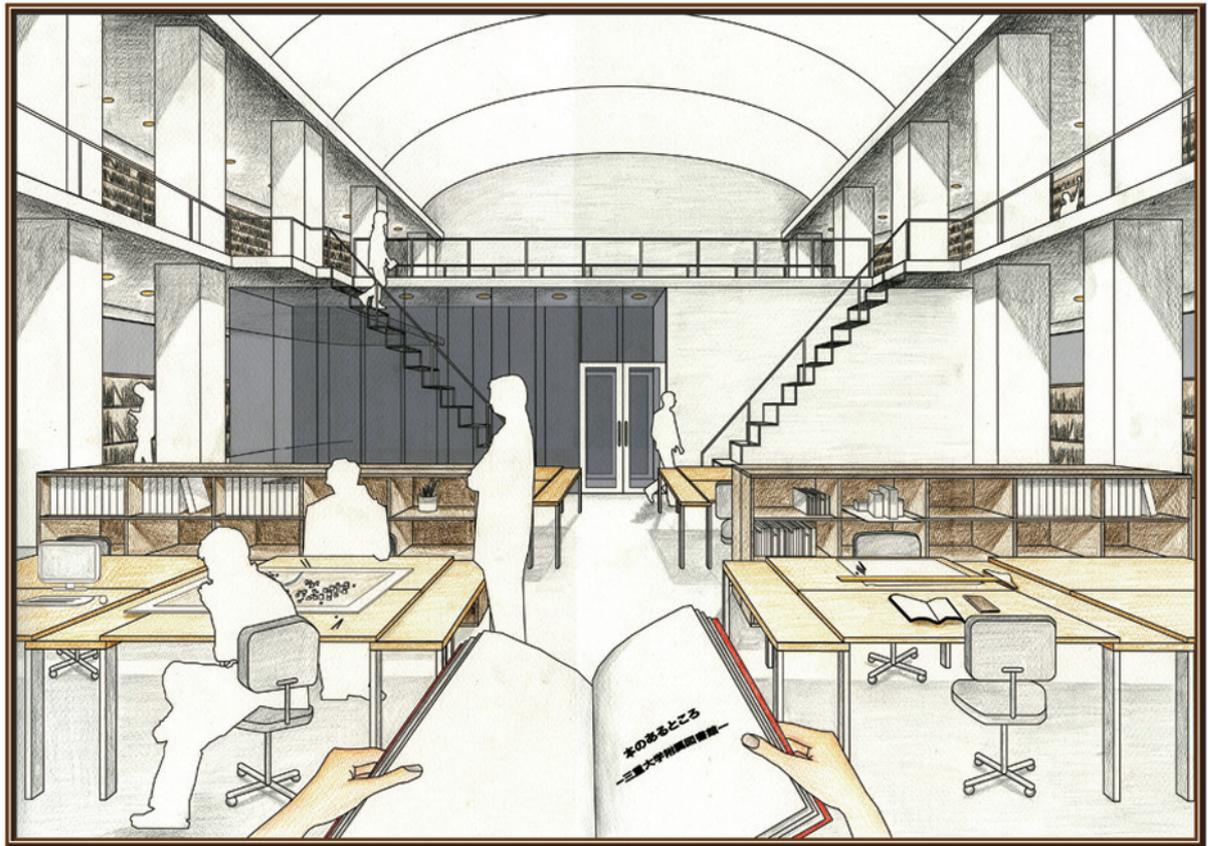
現況：地上3階
 1、2階に図書館スペース、3階に
 管理スペース
 計画地：現況の北隣、現第三共通教育棟
 建築地
 計画：地上3階、地下1階
 1、2階に図書館スペース、3階に
 管理スペース
 各分野毎に蔵書を室で分け、それ
 ぞれの空間が個性を持つ。



中央図書館内観ハース

本の世界に引き込むように
 十個の部屋が口を開いて待っています
 たくさんの人の成果である本を
 大切に展示しました
 どの部屋から覗いてみますか？





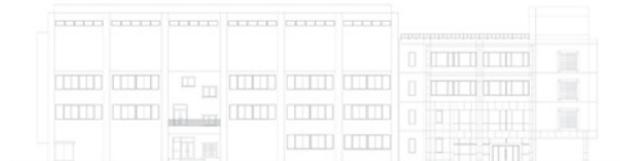
建築学科棟内観パース

建築学科棟増築計画

建築学科棟の4階及び5階の増築計画である。」

2層吹き抜けの、本棚が周囲を取り囲む学生の学習空間であり、講義でも利用される。

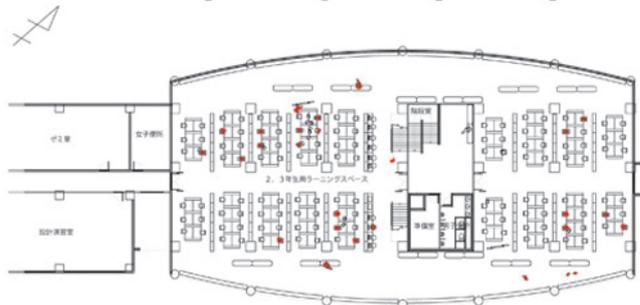
窓の入口にはBDS(盗難防止装置)を設置し、基本的に蔵書はこの室の中のみで利用されることとし、貸し出しはしない。いつでも読みたい本がそこにあり、読書だけでなく、テスト勉強も、友達のおしゃべりも、授業も設計も、この空間は通えてくれる。



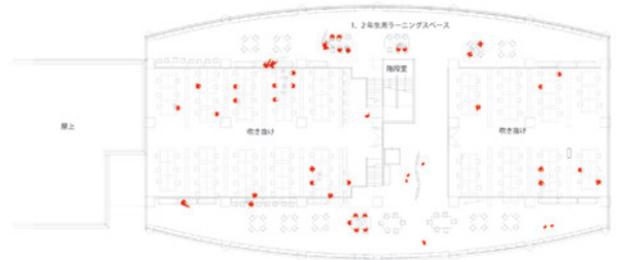
建築学科棟 北側立面図 1:200



建築学科棟 A-A' 断面図 1:50

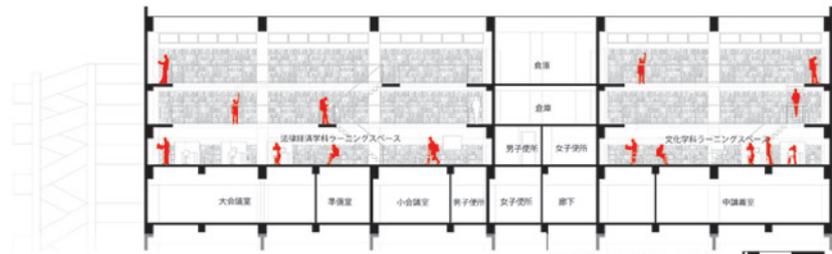


建築学科棟 4階平面図 1:100



建築学科棟 5階平面図 1:100





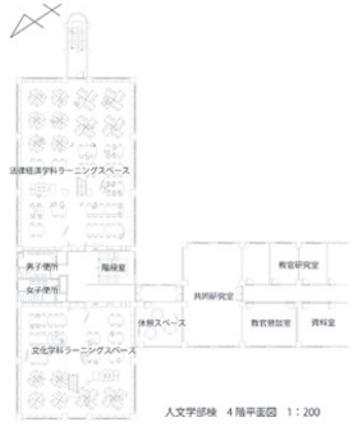
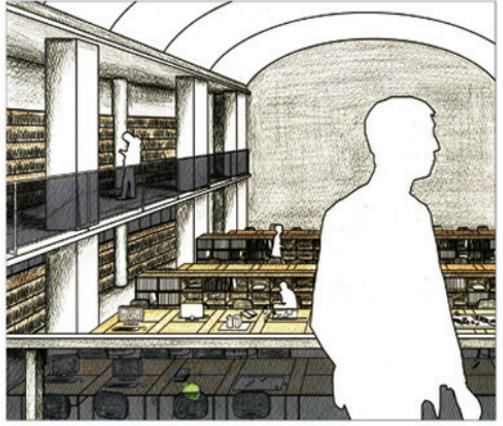
人文学部棟 A-A' 断面図 1:100

人文学部棟増築計画

人文学部の全学科の学生が生活する人文学部棟に、巨大な学習空間を増築する。三層分の本棚を積んで、蔵書数が多い人文学部に分類される本を収容する。ラーニングスペースは学科毎に二つに分かれており、いずれも本を貸し出すことはできないが、たくさんの本とインターネットのある環境で十分な学習ができるだろう。



人文学部棟 B-B' 断面図 1:200



人文学部棟 4階平面図 1:200



人文学部棟 5階平面図 1:200



人文学部棟 6階平面図 1:200

